

齋藤茂吉全集

第二卷

齊藤茂吉全集

第二卷

第六回配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第二卷

定價 千八百圓

昭和四十八年六月十三日發行

著者 齋藤茂吉

發行者 岩波雄二郎

發行所 株式會社 岩波書店
東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

歌
集
二

目次

ともしび

大正十四年

歸國	三
火難	四
焼あと	五
隨縁近作	五
長崎往反	一〇
近江蓮華寺行其一	二
近江蓮華寺行其二	三
醒が井途上	一四
摺針越抄	一五

閉居吟其一	一五
閉居吟其二	一七
逢坂山	一八
沙羅雙樹花	一九
木曾福島	二二
木曾山中其一	二三
木曾鞍馬溪	二四
木曾山中其二	二五
木曾氷が瀬其一	二六
木曾氷が瀬其二	二六
木曾氷が瀬其三	二六
閉居吟其三	二七
比叡山安居會	二八
高野山其一	二九
高野山其二	二九
熊野越其一	三〇

熊野越其二	四
箱根漫吟の中其一	四
箱根漫吟の中其二	五
箱根漫吟の中其三	六
草蜉蝣	九
渾沌	五
雑歌控	五四

昭和元年

家常茶飯	五
雪ぐもり	七
寒月集	七
山房の夜中	五
山房漫吟其他	六
麥の秋	五
三峯山上	五

上野國に入る	六
歩道の氷	六
金線草	六
諏訪	六
霜	七
信濃數日	七
高遠	七
童馬漫吟	七
この日ごろ	七
この夜ごろ眠りがたし	七
奉悼歌	七
昭和二年	
昭和二年歲旦頌	八
山房小歌	八
伊東浴泉雜歌の中	八

春のはだれ	八三
韭	八四
雨	八五
童馬山房折々	八六
永平寺吟	九〇
アララギ第四回安居會	九〇
大佛寺途上	九一
玲瓏巖	九二
門外・歸途	九三
永平寺漫吟補遺	九四
十國峠	九五
青山墓地	九六
信濃行其一	九七
信濃行其二	九八
信濃行其三	九九
天龍川其一	一〇〇

天龍川其二	101
妙高溫泉其一	103
妙高溫泉其二	103
晚秋	105
業餘の吟	106
この日頃	108
雜歌	109

昭和三年

折に觸れつつ	111
近時	113
淺草をりをり	113
この日ごろ	114
折に觸れて	115
青根	115
C病棟	116

業餘小吟	二七
仙臺	二八
三山參拜の歌	二九
志津	一九
湯殿山	二三
月山	二四
羽黒	二七
歸路	二八
出羽三山	二九
最上平野を過ぐ	三〇
草むら	三一
歌會	三二
折々の歌	三三
奉祝	三四
冬	三五
籠喪	三六

雑歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二七

御大典奉祝歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三九

後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・四三

たかはら

昭和四年

日常吟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

一月某日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

所縁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

歌會・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

この日ごろ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

最上川行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

秋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二六

一日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二六

飛行機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二六

越後妙高山	一八四
妙高・野澤温泉	一八五
この日ごろ	一八七
歌會	一八九
蟬	一九〇
三山參拜初途	一九一
月山	一九五
湯殿山	一九九
笹小屋より羽黒	二〇〇
羽黒	二〇三
最上川	二〇六
雪谿	二〇七
高野山	二〇七
飛鳥	二一一
吉野	二二三
丹生の川上	二三四

連山

滿洲遊行

宮瀧	二五
郡山	三六
近江番場八葉山蓮華寺小吟	三七
歲晚雜事	三二
昭和五年雜歌	三三
後記	三五

大連	三三
旅順途上	三七
旅順	三八
南山	四〇
千山途上	四一
千山其一	四二

千山其二	二四四
千山歸途	二四五
遼陽	二四六
黑溝臺	二四七
奉天（遼寧）	二五〇
北陵	二五一
東陵	二五四
撫順	二五六
哈爾濱其一	二五七
哈爾濱其二	二五九
滿洲里途上其一	二六一
滿洲里途上其二	二六三
滿洲里	二六六
歸途其一	二六八
歸途其二	二七〇
歸途其三	二七二